

写実のゆりあるのゆりくえん

現代の作家たち
生かると「写実」

●幕末から明治時代初めに流行した生人形の迫真の技は、当時の日本人はもとより、来日した西洋人にも大きな衝撃を与えました。明治二〇年代に滞日した人類学者C.H.シュトラッパは「解剖学の知識もなしに強い迫真性をもって模写することもできる」生人形師の力量に感嘆しました。また、

彼は、生人形が理想化

着目してきます。●明治期の日本は近代

も様式化もされず、ありのままの姿であることにも化す過程において西洋由来の新たな写実表現

術」という言葉が生まれると、生人形や置物は

そこには、細部への過剰なこだわりや「もの」に命が

とみることができません。●今、日本においては、写実

返りのような要素が見受けられます。これは、旧

綿と続く写実の流れが、いわば間歇泉の様に、息

といえるでしょう。また、彼らの作品の中には近代

写実を模索してい

は、江戸末期から活躍

とができます。●本展

三郎らの生人形作品

る福山ゆかりの彫刻家、平

代作家の平面、立体作品群

近現代美術における写実表現のありようを合わせて紹介します。●

出品作家：序章「松本喜三郎、安本亀八、高橋由一、室江吉兵衛、室江宗

智、高村光雲、関義平、須賀松園(初代)、平櫛田中【彫刻】佐藤洋二、前原冬



↑高橋由一《鯛(海魚圖)》1879年頃、金刀比羅宮蔵
↑本郷真也《盈虚—鏡自在イグアナ》2019-22年、個人蔵
↑平櫛田中《郭子儀》1959年、小平市平櫛田中彫刻美術館蔵
↑満田晴穂《自在大蟻行列 一円環》(部分) 2021年、個人蔵

●関連プログラム：①記念講演会「リアル(写実)のゆりくえんについて」9.23[金祝] 14:00~15:30 講師：江尻潔(足利市立美術館学芸次長) 会場：1階ホール 定員：100名(先着順・聴講無料)／②ギャラリートーク 9.24[土] 10:00~11:00 講師：江尻潔 会場：1階企画展示室・ギャラリー(特別展観覧券が必要)／③記念講演会「江戸・明治工芸にみるリアル」10.15[土] 14:00~15:30 講師：原田一敏(当館館長) 会場：2階多目的室 定員：50名(先着順・聴講無料)／④ワークショップ(ファミリー・アート教室)「金箔を貼る!自分だけの箸づくり」10.8[土] 15:30~16:30、10.9[日] 11:00~12:00/14:00~15:00 講師：高嶺蓮(漆インストラクター・彦十蔭絵マネージャー) 定員：各回6組(応募多数の場合は抽選) 対象：小・中学生とその保護者 参加費：1人3,500円 申込方法：往復ハガキまたは市HP電子申請システムに、郵便番号・住所・電話番号・参加者名(保護者・子ども)・年齢/学年(子どものみ)・参加希望の時間を記入してご応募ください 締切：9.18[日] 必着 応募先：〒720-0067 福山市西町2-4-3 ふうやま美術館「ファミリー・アート教室」係



●同時開催：秋季所蔵品展「城下町福山 屋外モニュメントと芸術家」2022.10.1[土]→11.20[日]
●次回特別展予告：「福山城築城400年記念協賛事業 名刀江雪左文字—江雪斎、家康、頼宣が愛した刀の物語—」2023.2.4[土]→3.19[日]
〒720-0067 広島県福山市西町2-4-3
Tel.084-932-2345 Fax.084-932-2347
Twitter:@fukuyama_bi
【交通案内】JR「福山駅」北口から西へ400m
山陽自動車道「福山東IC」から車で20分
駐車場68台(特別展・所蔵品展観覧で1時間無料)
FUKUYAMA MUSEUM OF ART
ふうやま美術館